

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
34	川崎市立向丘中学校	堀口 和也

学校教育目標	今年度の重点目標
学び合い 高め合い とともに生きる 向丘プライド 自他のよさを見つけ、伝え、伸ばそう	1 生徒にとって「わかる授業」の推進 2 生徒個々の困り感に寄り添うことのできる支援教育の推進 3 生徒自ら考え判断する生徒の育成 4 生徒や保護者、地域の方々の意見を大切に、学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 わかる授業の推進	○日頃の生徒の学習状況を踏まえ、各教科の学習内容の一層の充実 ○生徒にとって「わかる授業」の実践の推進とGIGA端末の有効活用	○教師同士の授業公開週間を中心に、生徒の学習活動を振り返り、各々の教科等に生かした。 ○生徒一人一人の考えを大切に、GIGA端末などを有効に活用し、生徒にとって「わかる授業」の実践を進めた。	○授業の質の向上を目指すことを共通な課題として、学校全体で検討を進め、それぞれの活動に生かす。 ○GIGA端末などの活用方法を検討し、生徒の興味・関心を高め、生徒一人一人の意見や考えを交流する機会を設ける。
2 支援教育の推進	○困り感のある生徒へのきめ細かな支援と支援体制の充実	○支援が必要な生徒の情報を共有し、それぞれの生徒の困り感を把握することに努めた。 ○それぞれの生徒に必要な支援を、具体的な手立てで取り組めよう活動を見直した。	○生徒の困り感を把握するために情報共有の場を継続的に設け、また最新の支援教育の取組や情報を定期的に発信する。 ○実際にどのような場面で支援が必要なのかを考えながら実践し、具体的な対応を検討し、充実した教育活動が行えるようにする。
3 生徒自ら考え判断する生徒の育成	○生徒の意見が反映される生徒会・委員会活動の推進 ○行事等での活動を通して、生徒の自覚と責任感の育成 ○生徒の納得感を大切に生徒指導の推進	○生徒の意見を大切に、生徒会活動の充実を教師が適切にサポートした。 ○生徒集会や各行事等の目的を意識させ、行事後の成果をしっかりと生徒に伝えた。 ○物事の決定には選択肢を用意し、生徒が納得感を得られるよう指導を進めた。	○生徒自ら考え判断できた具体的な例を基に、研修する機会を設け、生徒の学校生活が更に充実できるように、学校全体の取組として推進する。 ○教師一人一人が、生徒の自発的な活動を褒め、認める環境づくりを目指し、生徒の自己肯定感を高められるような活動を行う。
4 様々な意見を大切にしたい学校づくり	○保護者や学校にかかわりのある、PTA・教育懇話会・同窓会の活動の連携・活性化 ○地域の中の学校として、学校運営協議会との協力・連携 ○保護者の理解を得ながらの働き方改革の推進	○教育懇話会・同窓会とは今年度、フェスタに加え「芋唄り」を行い、生徒を知るよい機会となった。 ○学校運営協議会の方々と生徒会本部役員が話す機会を設け、学校の様子を知ってもらい、今後の地域との関わり方について考えることができた。	○今年度は、生徒と教育懇話会・同窓会と直接かかわる機会がもてたので、次年度も継続できるように検討を進める。 ○教師の働き方改革に関しては保護者に周知し、共に理解を進め、よりよい教育活動ができるように働きかける。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
保護者や地域の方々、何よりも子供達が健やかに学校に通える環境づくりに尽力してくれた教職員の皆さんのおかげで、子供のたくさんの笑顔を見ることができ、その取組に高い評価をしたい。また、地域の協力を様々に得て、PTA主催のフェスタ等、教職員の温かい協力で無事に開催することができた。近年、コロナウィルスの影響から子供達との関わりが減少傾向になりつつあるが、活動の様子が垣間見られたことは、貴重なことだと思う。今後も学校・保護者・地域の方々が互いに連携し、個性輝く生徒達の未来のための学校づくりに取り組んでもらいたい。	今年度の「学校生活・学校教育活動アンケート」は、全生徒、各家庭の協力を得て、GIGA端末や保護者のスマートフォンからの情報を基に、まとめることができた。アンケートの内容は各項目で概ね良好な結果となった。特に地域との交流については、その活動が認められる結果となった。次年度に向けては、生徒が主体となる授業づくりを進め、学習内容の確実な定着を目指し、自己肯定感の向上に努めていきたい。また、困り感をもっている生徒への支援の仕方を検討し、実践を進めていきたい。来年度も、協力的な保護者や地域の方が多いことに甘えずに、日々の生徒の活動が応援される学校を目指したい。また、保護者の理解を得ながら、働き方改革も進めていきたい。